

水稻作況試験情報 【令和7年産 普通期栽培】

香川県農業試験場（7月30日現在）

移植期以降、最高気温は非常に高く推移した。最低気温も高く推移していたが、7月後半は平年並みの推移となった。降水量は7月2半旬から4半旬にかけて一定の降雨があったものの、それ以外の期間はほとんどなかった。日照時間は、平年よりも多照であった。田植40日後の調査では、過去5か年平均に比べ、草丈、主稈葉数はいずれの品種も同等であった。茎数はコシヒカリは多く、おいでまい、ヒノヒカリはやや多かった。また、コシヒカリの幼穂形成始期は1日早かった。

1. 作況試験の方法

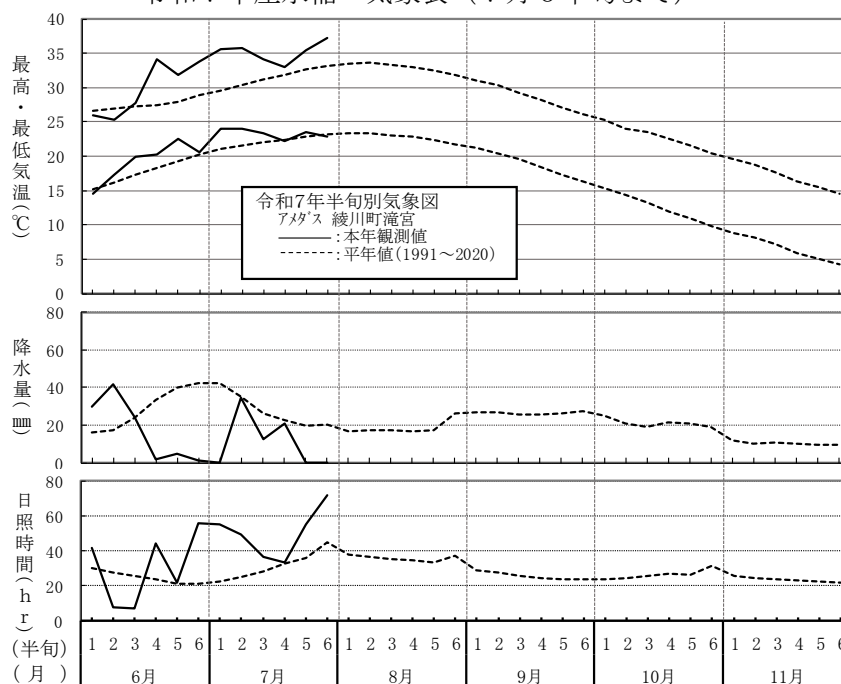
- 1) 供試品種：コシヒカリ、ヒノヒカリ、おいでまい
- 2) 播種期：5月30日 移植期：6月20日
- 3) 育苗方法：播種後、加温出芽させ、その後露地育苗した。
- 4) 栽植密度及び移植方法
18.5株/㎡ (30cm×18cm)、1株4本程度、機械移植
なお、生育調査株は移植直後1株4本に調整した。
- 5) 本田施肥 (N成分kg/a)

	基肥	穂肥Ⅰ（予定）	穂肥Ⅱ（予定）
コシヒカリ	0.3	0.15	0.10
ヒノヒカリ	0.5	0.25	0.15
おいでまい	0.5	0.25	0.15

- 6) 使用肥料：化成肥料 (N : P₂O₅ : K₂O = 14 : 10 : 12%)
- 7) 1区面積及び区制 1区250㎡ (コシヒカリ500㎡)、2反復

2. 具体的データ

令和7年産水稻 気象表（7月6半旬まで）



令和7年産 水稻作況試験生育調査結果(7月30日現在)

調 査 (月／日)	供試品種 項 目	コシヒカリ			ヒノヒカリ			おいでまい		
		本年	過去5か年 平均値	差(比)	本年	過去5か年 平均値	差(比)	本年	過去5か年 平均値	差(比)
移植時	草丈(cm)	11.9	15.5	▲ 3.6	11.2	12.3	▲ 1.1	10.7	11.6	▲ 0.9
(6/20)	主稈葉数(枚)	2.4	2.5	▲ 0.1	2.7	2.6	0.1	2.8	2.6	0.2
田植20日後 (7/10)	草丈(cm)	34.2	39.6	▲ 5.4	25.8	31.3	▲ 5.5	28.6	32.4	▲ 3.8
	茎数(本/㎡)	315	240	31 %	382	288	33 %	406	324	25 %
	主稈葉数(枚)	7.4	7.4	0.0	7.6	7.5	0.1	7.7	7.7	0.0
田植30日後 (7/20)	草丈(cm)	60.4	59.2	1.2	47.2	50.8	▲ 3.6	48.3	50.6	▲ 2.3
	茎数(本/㎡)	560	441	27 %	658	527	25 %	742	596	25 %
	主稈葉数(枚)	9.5	9.6	▲ 0.1	9.9	9.7	0.2	10.1	9.8	0.3
田植40日後 (7/30)	草丈(cm)	77.6	76.0	1.6	69.5	68.4	1.1	69.3	68.5	0.8
	茎数(本/㎡)	586	489	20 %	674	616	9 %	797	733	9 %
	主稈葉数(枚)	10.8	11.0	▲ 0.2	11.3	11.1	0.2	11.7	11.6	0.1
播種期(月／日)		5/30	5/30	0	5/30	5/30	0	5/30	5/30	0
移植期(月／日)		6/20	6/20	0	6/20	6/20	0	6/20	6/20	0
幼穂形成始期(月／日)		7/25	7/26	▲ 1		8/4			8/6	
出穂期(月／日)			8/15			8/26			8/27	
主稈止葉葉位(枚)			12.8			14.1			14.6	
穂数(本/㎡)			396	%		440	%		467	%
稈長(cm)			94.6			87.1			85.6	
穂長(cm)			19.7			18.7			19.4	
成熟期(月／日)			9/18			10/3			10/2	

注1) コシヒカリ、ヒノヒカリ、おいでまいの差は過去5か年平均との比較で示した。

注2) 茎数・穂数については対比(増減%)で表し、これ以外の項目については対差(実数値)で表した。なお▲は少ない、短い、早いことを示す。